

年次活動報告書発刊に寄せて

熊本大学工学部では、平成12年度（2000年度）から毎年、本学部及び大学院自然科学研究科（工学系）の年次活動報告書（年報）を刊行して参りました。本年も、本学部評価情報専門委員会ならびに各学科のご尽力により、ここに第17号が完成いたしました。

本報告書には、例年に習い平成28年度（2016年度）における教育、研究、社会貢献、管理運営など各分野における所属教員の多彩な活動の実績や、部局運営に関する組織としての取り組みを、時系列的にも比較が可能な形でまとめております。学外の方々に組織としての活動状況を的確にご理解いただき、大学運営について指導助言をいただくための情報公開が本報告書作成の目的ですが、同時に、教職員自らがその活動を客観的に振り返り、次期の活動を企画検討する際の資料として活用されることも意図しております。是非とも内容をご一覽いただき、ご活用いただけましたら幸甚に存じます。

熊本大学の第三期中期目標・中期計画期間（平成28～33年度）における大学としての目標“～「くまもと」から世界に輝く研究拠点大学～ 「創造する森 挑戦する炎」”に沿い、教員組織である大学院先端科学研究部ならびに教育組織である工学部及び大学院自然科学研究科では、教育研究、社会貢献における活動を展開しており、第三期の初年度の成果を整理したものととなります。

教育面では、工学部における6つの学科が外部審査機関からISO14001やJABEEなどの国際水準の教育プログラムの認定を継続し教育の質を保証する取り組みを継続するとともに、平成27年度に採択された「グローバルものづくり実践力の協働教育事業 ～Entrepreneurship を持ち社会や企業をリードする人材教育の実践～」により、従来培ってきた体感型授業や問題発見・解決型授業の開発・拡充の他に、学部・学年・国の枠を越えて、協働するものづくり教育を展開しています。平成26年度に採択された「スーパーグローバル大学創成支援」事業の支援を受け、設立された「グローバル教育カレッジ」と連携し学部教育のグローバル化の推進しており、平成28年秋にグローバルリーダーコースを対象としたAO入試を実施しました。

研究面では平成25年度に選定された「文部科学省研究大学強化促進事業(RU-22)」を核に、工学部・大学院自然科学研究科においても様々な研究が活発に展開しております。「パルスパワー科学研究所」および「先進マグネシウム国際研究センター」の研究成果とも連携し、先端科学研究部工学系では多くの研究成果を世界に向けて発信しています。また、平成27年度大学教育再生戦略推進費「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に採択され、工学部・大学院自然科学研究科の学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、熊本を中心として地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラム改革を進めております。

その一方、平成28年4月14日の前震および16日の本震からなる熊本地震により、工学部も大きな被害を受けましたが、九州地区の大学をはじめとする国内外の多くの教育研究機関より物心両面でも多大なるご支援をいただきました。これらのご支援なくしては、熊本大学工学部・大学院自然科学研究科に在籍する学生が十分な教育を受け、社会に巣立つことさえできなかつたと考えています。平成30年春を迎えようとする今も、工学部新1号館は基礎工事の段階であり、キャンパス内では今なお復旧作業を継続している状況ではありますが、今回平成28年度年次報告を発刊することができました。このような状況のなか、平成29年11月の工学部創立120周年記念行事を開催することができたのも、多くの方のご支援のおかげであることは改めて申すまでもありません。多くのご支援に応えるため、教育・研究・社会貢献という大学として責務を、着実に果たすための取り組みを教職員が一丸となり取り組んでまいります。これまでの実績や蓄積、さらには今回の熊本地震で学んだ多くのことを踏まえて、教育力や研究力に一層の磨きをかけ、世界水準の教育と国際的に卓越した研究の実践に努力したいと思っております。今後とも、熊本大学工学部の活動に対し、ご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成30年2月

熊本大学

工学部長・大学院自然科学研究科長

宇佐川 毅